

【大阪の歴史散歩】

与謝蕪村生誕地

大阪駅前から守口車庫前行の市バスに乗り約15分、大川に架かる毛馬橋を渡った東詰のバスの停留所（毛馬橋）で下車する。この毛馬橋は昭和33年頃、当時では珍しかったSM50材を使った3径間連続合成桁で、中間の支点をジャッジアップ・ダウンしてプレストレスを導入した橋梁である。

毛馬橋から大川に沿って約500mほど北にぶらつくと、新淀川との分岐点に出る。ここの堤防上に蕪村の生誕地を示す石碑と句碑がある。俳人・画人として大きな足跡を残した蕪村は1716年（享保元年）摂津国東成郡毛馬村（現：大阪市都島区毛馬町）に生れ、江戸に出て夜半亭宋阿（やはひていそうあ）の弟子となり俳諧を学び、池大雅とともに南画にも通じ名を知られるようになった。

碑に刻み込まれた

春風や 堤長うして 家遠し
は「春風馬堤曲」に収められているもので、馬堤とは毛馬の堤防のことである。

句碑から左手、新淀川と大川の分岐点には「毛馬閘門」が設けられていて、砂利運搬船等の小型船舶の通過時の水位調節を行なっている。現在は新しいものに作り直されているが、旧閘門は1885年の淀川大洪水に対する防災工事の一つとして着工され、1910年に完成した。これは我が国にお

ける近代治水工事の発祥といわれている。また、句碑の目の前の新淀川本流には水道水取水と水量調整のための「淀川大堰」があり、黄昏時には河口の方を眺めると夕陽に映えて一幅の名画となる。

この付近の水質は昭和40年代を境に汚染が少なくなり、現在では鯉・鮒はもちろん、清流の象徴でもある鮎までが中之島を經由して遡上し、毎年5月頃には毛針を使ったドブ釣で、銀鱗をひらめかすなど、周年釣人の絶えない環境となり、都心に近いオアシスとして親しまれている。

現地へは大阪駅前市バス3番乗場『幹34 守口車庫前』行に乗車、徒歩を含めて約25分。

